

Lesson Study Analyst 操作マニュアル

= 2.授業分析 =

授業分析の方法には大きく2通りがあります。

- I. 実際の授業を見ながらその場で記録する。
- II. 動画を見ながら授業分析
 - ① アプリに動画を取り込んで分析
 - ② 別途動画閲覧しながら分析

それぞれの手順とメリットは以下の通りです。

- I. 実際の授業を見ながら授業分析する場合

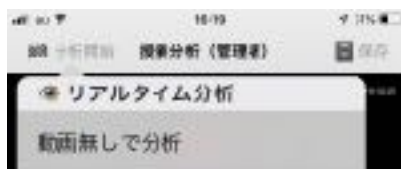
1. アプリを立ち上げます。



2. ヘッダの分析開始からメニューを開きます。

3. 動画無しで分析を選択すると授業時間の設定が表示されますので必要な時間に設定してOKをタップします。

これでいつでも分析記録開始できます。



4. 期間記録

緑：学数指導 ブルー：マネジメント 黄：認知学習 赤：運動学習
のボタンからなり、押すことでタイムラインに記録が始まります。
ボタンは排他的になっているため、学習指導の後運動学習をタップすると自動的にタイムラインの記録が変わります。



5. 相互作用の記録

教師行動ともいいますが、授業が進行している中での教師の声かけの内容を詳しく記録するためのボタンです。

大きくは「発問」「励まし」「肯定的フィードバック」「強制的フィードバック」「否定的フィードバック」の5種があり、それぞれに全体に向けたものかグループに向けたものか個人に向けたものの区別があり、さらに具体的な内容か一般的な内容かの区別があります。



5-1.発問

「どうすればいい?」とか「何がしたい?」、「今のはどうすればよかった?」などの声かけをしている時にタップします。全体に向けた発問か、グループに向けた発問か、個人に向けた発問かを記録していきます。



5-2.励まし

「いいね!その調子!」とか「今の最高!」とか「頑張れ!!」などの声をかけた時に記録します。全体に向けた発問か、グループに向けた発問か、個人に向けた発問かをしっかり見極めながら記録していきます。



5-3.肯定的フォードバック

「集まりが早いね!」、「すごくいいポジションだった」、「今のパスの連携は素晴らしい!」
「このグループのアイデア面白いね!」など運動学習に限らず生徒に褒めた言葉をかけた時に記録します。全体に向けたものか、グループに向けた発問か、個人に向けた発問か、さらに一般的なものか具体的なものかをしっかり見極めながら記録していきます。

例: 「Aグループの今のパスのポジションとリズムいいね」と発した時は
グループに対する具体的な肯定的フィードバックになります。

「は〜い集合! お〜早いね!」だと
全体に対する一般的な肯定的フィードバックになります。

「Oさんの今の意見は非常に面白いね。みんなで参考にしよう!」
と発した時は
個人に対する具体的な肯定的フィードバックになります。



5-4. 矯正のフィードバック

「今の場合反対にパスした方が相手がいなかったんじゃない?」、「もう少しスピードアップして」、「早く集まろう!!!」など生徒に対して動作や考え方、捉え方を変えて臨むように促す言葉をかけた時は矯正のフィードバックとして記録します。

全体に向けたのもか、グループに向けた発問か、個人に向けた発問か、さらに一般的なのもか具体的なものをしっかり見極めながら記録していきます。

例：「みんなもっと早く走って!!!」と発した時は
全体に対する具体的な矯正のフィードバックになります。

「Bグループさんはもう少し元気よくね!」と発すると
グループに値する一般的なフィードバックになります。

「T君、そこにいたらパスもらえないからもっと前に行ってね」
と発すると個人に対する具体的な矯正のフィードバックになります。



5-5. 否定的フィードバック

「そこにいちゃだめ!!!」、「ダラダラしない!」、「こら!何やってんだ!」のように否定的な言葉をかけた場合に否定的フィードバックとして記録します。

全体に向けたのもか、グループに向けた発問か、個人に向けた発問か、さらに一般的なのもか具体的なものをしっかり見極めながら記録していきます。

例：「集まりが遅い!!!!」と発した場合は
全体に対する、一般的な否定的フィードバックとして記録します。

「こら、そこでパスするんじゃない!」と発した場合は
個人に対する具体的な否定的フィードバックとなります。

「Cグループの発表は何が言いたいかわからない!
もっと具体的に説明して」などと発した場合は
グループに対する具体的な否定的フィードバックとして
記録します。



このフィードバックボタンは長押しするとフィードバックしている時間の長さが回数とともに記録されます。

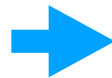
6.いいね・間違いメモ

記録中に特によく思った時点や間違えて判断してしまった時点の後から振り返ったり、訂正するためのフラグを立てるためのボタンです。



タッチするとタイムライン状にそれぞれのマークが
つきます。

訂正画面にするとフラグのついたところの相互作用
などが表示され、タップして変更したり時間お
調整をすることができます。



訂正画面ではタイムラインも同様にタップして時間、種類を細かく訂正することができます。
動画を取り込んで細かく分析する時にはこの訂正モードを使ってより正確な分析をすることが可能
です。

例：00：36：40～00：39：44：14の認知学習の時間を訂正するには

①フッター部分の訂正ボタンをタップ



②期間記録の適合する黄色の帯をタップ



③認知学習の黄色帯の下地に赤文字でタイムラインが記載されていますので、そこ赤文字をタップ
し、表示された訂正ボードの+ - 期間記録の種類選択ボタンで訂正して保存します

